

5年生 「もっと読みたい」と言ってもらおう 幸せ運ぶ小説家

## アニメなど具体的な例をまねて、 構成の工夫を習得しよう

### 1 はじめに

学習指導要領が改訂された主な内容のひとつに言語活動の充実が挙げられている。ここでは、「書くこと」の言語活動例ア「経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること」を通して、構成に関する指導を行う場合にポイントを絞り、限られた時間の中で充実した学習にするためのヒントをいくつか紹介したい。

### 2 具体的なイメージと 時数に計上されない時間の活用

ここでは想像したことをもとに物語を書く活動をするが、最大のポイントは子どもたちがいかに具体的にイメージをもつことができるかであると思う。単元名もそのひとつで、子どもたちが活動のゴールをイメージする大切なものである。ここでは、自分が創った物語を友だちや家族など身近な人に読んでもらい、読んだ人が幸せな気持ちになれて、「もっと(続きや続編や違う作品などを)読んでみたい」と思ってもらえたら大成功! という意味合いを込めてつけた。

また、物語を書き始める導入は様々であるが、ここでは自分で撮った写真をもとに物語を書き始めた。この「自分で撮った」というところがミソである。多くの教科書ではこのような単元は小単元扱いで時間数が少なく計画されている。しかし自分で写真を撮るといった活動を取り入れることにより、国語の時間のみならず、日常生活の中で物語の中心となる被写体を探すことになり、探している行為と同時にどのような物語にしようかおのずと構想していることになる。

### 3 アニメ等で構成の効果の 具体的なイメージをもつ

自分の物語のテーマが決まったら、そのテーマがよく伝わるような構成と書き出し文の工夫が大切である。

まず、文章全体の構成の効果について考えるときには子どもが普段接しているアニメや既習の物語などを例に挙げるとイメージしやすい。

(1) 一人称か三人称か選ぶ。

(2) 構成の工夫

- ・はじまり→事件→解決→結び (ポケモンやコナン)
- ・事件→関係 (人と人・人との・ものとの) が変わる→結び
- ・現在→過去→現在、現在→未来→現在 (わらぐつの中の神様、ドラえもん)
- ・プロローグから始まる (ナルニア国物語)、いきなり物語から入る

(3) 書き出しの工夫

書き出しの工夫についても具体例を挙げその中の型から選んで書き始めるとよい。紙面の都合上具体的な文章まで表記できないが、授業ではそこまで提示する。

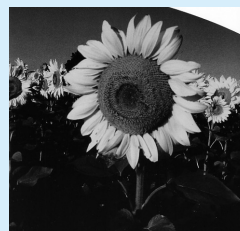
- ①「 」(話し言葉・つぶやきなど) から始まる
- ②感覚 (におい・色・手触り・音など) から始まる
- ③景色 (森、まち、学校の景色など) から始まる
- ④問いかけから始まる
- ⑤人の紹介から始まる

構成・書き出し文とも、ワークシートを用いるのが効果的であった。

#### 【子どもの作品】

〈空の写真と書き出し〉

いつも空の下を眺めている。その空は、青々としていて、何かいい予感がする。僕の名前はラビン。雲の世界に来てまだ2ヶ月の小さな男の子。



〈ひまわりの写真と書き出し〉

「おばさん、これ本当にいいの。」少年が花屋の前でおばさんと話してた。

